

ホームシアター システム

取扱説明書

接続と準備

操作と特長

BLUETOOTH接続で聞く

サラウンド効果

詳細な設定

その他

お買い上げいただきありがとうございます。



警告

電気製品は、安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。**お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。



警告

安全のために

ソニー製品は安全に充分配慮して設計されています。しかし、電気製品はすべて、間違った使いかたをすると、火災や感電などにより人身事故になることがあります。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。



安全のための注意事項を守る

3～5ページの注意事項をよくお読みください。製品全般の注意事項が記載されています。

6～8ページの「使用上のご注意」もあわせてお読みください。

定期的に点検する

設置時や1年に1度は、電源コードに傷みがないか、コンセントと電源プラグの間にほこりがたまっていないか、プラグがしっかり差し込まれているか、などを点検してください。

故障したら使わない

動作がおかしくなったり、キャビネットや電源コードなどが破損しているのに気づいたら、すぐにお買い上げ店またはソニーサービス窓口にて修理をご依頼ください。

万一、異常が起きたら

変な音・においがしたら、煙が出たら



- ① 電源を切る
- ② 電源プラグをコンセントから抜く
- ③ お買い上げ店またはソニーサービス窓口にて修理を依頼する

警告表示の意味

取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。



この表示の注意事項を守らないと、火災・感電・破裂などにより死亡や大けがなどの人身事故が生じます。



この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などにより死亡や大けがなど人身事故の原因となります。



この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号



注意



火災



感電

行為を禁止する記号



禁止



分解禁止



接触禁止



ぬれ手禁止

行為を指示する記号



指示



プラグをコンセントから抜く



下記の注意事項を守らないと**火災・感電**により死亡や大けがの原因となります。

湿気やほこり、油煙、湯気の多い場所や、直射日光のあたる場所には置かない

上記のような場所に置くと、火災や感電の原因となることがあります。特に風呂場などでは絶対に使用しないでください。



禁止

内部に水や異物を入れない 本機の上に熱器具、花瓶など液体が入ったものやローソクを置かない

火災や感電の危険をさけるために、本機を水のかかる場所や湿気のある場所では使用しないで下さい。また、本機の上に花瓶などの水の入ったものを置かないで下さい。本機の上に、例えば火のついたローソクのような、火炎源を置かないで下さい。

→ 万一、水や異物が入ったときは、すぐに本体の電源ボタンを切り、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。



禁止

キャビネットを開けたり、分解や改造をしない

火災や感電、けがの原因となることがあります。

→ 内部の点検や修理はお買い上げ店またはソニーサービス窓口にご依頼ください。



分解禁止

雷が鳴りだしたら、本体や電源プラグに触れない

感電の原因となります。



接触禁止

本機を日本国外で使わない

交流100Vの電源でお使いください。海外など、異なる電源電圧の地域で使用すると、火災・感電の原因となります。



指示

風通しの悪い所に置いたり、通風孔をふさいだりしない

布をかけたり、毛足の長いじゅうたんや布団の上または機器を本箱や組み込み式キャビネットのような通気が妨げられる狭いところに設置しないで下さい。壁や家具に密着して置いて、通風孔をふさぐなど、自然放熱の妨げになるようなことはしないでください。過熱して火災や感電の原因となることがあります。



禁止

電源プラグは抜き差ししやすいコンセントに接続する

本機は容易に手が届くような電源コンセントに接続し、異常が生じた場合は速やかにコンセントから抜いて下さい。通常、本機の電源スイッチを切っただけでは、完全に電源から切り離せません。



指示

電源コードを傷つけない

電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となります。

- 設置時に、製品と壁や棚との間にはさみ込んだりしない。
- 電源コードを加工したり、傷つけたりしない。
- 重いものをのせたり、引っ張ったりしない。
- 熱器具に近づけない。加熱しない。
- 移動させるときは、電源コードを抜く。
- 電源コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜く。

→ 万一、電源コードが傷んだら、お買い上げ店またはソニーサービス窓口にご依頼ください。



禁止



下記の注意事項を守らないと**けが**をしたり**周辺の家財に損害**を与えたりすることがあります。

上に乗ったり、座ったりしない

落ちてけがの原因となることがあります。また、本機を傷める原因となります。



禁止

ぬれた手で電源プラグにさわらない

感電の原因となることがあります。



ぬれ手禁止

大音量で長時間つづけて聞かない

耳を刺激するような大きな音量で長時間つづけて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

→ 呼びかけられたら気がつくくらいの音量で聞くことをおすすめします。



禁止

安定した場所に置く

ぐらついた台の上や傾いた所などに置くと、製品が落下してけがの原因となることがあります。また、置き場所、取り付け場所の強度も十分に確認してください。



禁止

コード類は正しく配置する

電源コードやAVケーブルは足にひっかけると機器の落下や転倒などにより、けがの原因となることがあります。十分に注意して接続、配置してください。



禁止

移動させるときは、長期間使わないときは、電源プラグを抜く

長期間使用しないときは安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。絶縁劣化、漏電などにより火災の原因となることがあります。



プラグをコンセントから抜く

お手入れの際、電源プラグを抜く

電源プラグを差し込んだままお手入れをすると、感電の原因となることがあります。



プラグをコンセントから抜く

設置上のご注意

本機の角でけがなどをしないように、お気をつけください。

機種名の記載位置について (SA-CT660のみ)

機銘板は、サウンドバーの後ろ斜め下に貼ってあります。

心臓ペースメーカーの装着部位から22 cm以上離す

電波によりペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。



注意

可燃ガスのエアゾールやスプレーを使用しない

清掃用や潤滑用などの可燃性ガスを本機に使用すると、モーターやスイッチの接点、静電気などの火花、高温部品が原因で引火し、爆発や火災が発生するおそれがあります。



禁止

電池についての 安全上のご注意

液漏れ・破裂・発熱による大けがや失明を避けるため、下記の注意事項を必ずお守りください。



危険

電池の液が漏れたときは

素手で液をさわらない

電池の液が目に入ったり、身体や衣服につくと、失明やけが、皮膚の炎症の原因となることがあります。液の化学変化により、時間がたってから症状が現れることもあります。



接触禁止

必ず次の処理をする

- 液が目に入ったときは、目をこすらず、すぐに水道水などのきれいな水で充分洗い、ただちに医師の治療を受けてください。
- 液が身体や衣服についたときは、すぐにきれいな水で充分洗い流してください。皮膚の炎症やけがの症状があるときは、医師に相談してください。



指示



警告

電池は乳幼児の手の届かない所に置く

- 電池は飲み込むと、窒息や胃などへの障害の原因となることがあります。
- 万一、飲み込んだときは、ただちに医師に相談してください。



禁止

電池を火の中に入れてない、加熱・分解・改造・充電しない、水でぬらさない、火のそばや直射日光のあたるところなど高温の場所で使用・保管・放置しない

破裂したり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。



禁止

指定以外の電池を使わない、新しい電池と使用した電池または種類の違う電池を混ぜて使わない

電池の性能の違いにより、破裂したり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。



禁止

＋と－の向きを正しく入れる

＋と－を逆に入れると、ショートして電池が発熱や破裂をしたり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。

- 機器の表示に合わせて、正しく入れてください。



指示

使い切ったときや、長時間使用しないときは、電池を取り出す

電池を入れたままにしておくと、過放電により液が漏れ、けがややけどの原因となることがあります。



指示

使用上のご注意

設置場所について

次のような場所には置かないでください。

- ぐらついた台の上や不安定な所。
- 毛足の長いじゅうたんや布団の上。
- 湿気の多い所、風通しの悪い所。
- ほこりの多い所。
- 特殊な塗装、ワックス、油脂、溶剤などが塗られている床に本機を置くと、床に変色、染みなどが残る場合があります。
- 直射日光が当たる所、温度が高い所。
- 極端に寒い所。
- チューナーやテレビ、ビデオデッキといっしょに使用するとき、雑音が入ったり、映像が乱れたりすることがあります。このような場合は、本機をこれらの機器から離して設置してください。
- 電子レンジや大きなスピーカーなど、強力な磁気を発するものの近く。

設置時のご注意

本機は、ハイパワーアンプを搭載しています。そのため、本機背面の通風孔をふさぐと、内部の温度が上昇し、故障の原因となることがあります。通風孔を絶対にふさがないでください。

音量を調整するときは

ディスクはレコードと比べ、非常に雑音が少なくなっています。レコードをかけるときのように音声の入っていない部分の雑音を聞きながら音量を調整すると、思わぬ大きな音が出て、スピーカーを破損するおそれがあります。

演奏を始める前には、音量を必ず小さくしておきましょう。

ステレオを聞くときのエチケット

ステレオで音楽をお楽しみになるときは、隣近所に迷惑がかからないような音量でお聞かせください。特に、夜は小さな音でも周囲にはよく通るものです。

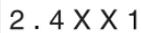


窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるなどお互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。このマークは音のエチケットのシンボルマークです。

本機の使用上の注意事項

本機の使用周波数は2.4 GHz帯です。この周波数帯では電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか、他の同種無線局、工場の製造ライン等で使用される免許を要する移動体識別用構内無線局、免許を要しない特定の小電力無線局、アマチュア無線局等（以下「他の無線局」と略す）が運用されています。

1. 本機を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、本機と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合には、速やかに本機の使用場所を変えるか、または機器の運用を停止（電波の発射を停止）してください。
3. 不明な点その他お困りのことが起きたときは、ソニーの相談窓口までお問い合わせください。ソニーの相談窓口については、本取扱説明書の裏表紙をご覧ください。

A rectangular logo with a double-line border containing the text "2.4 XX1". Below the text are two horizontal bars of varying lengths.

この無線機器は
2.4 GHz帯を使用し
ます。与干渉距離は
10 mです。

A rectangular logo with a double-line border containing the text "2.4 FH1". Below the text are two horizontal bars of varying lengths.

この無線機器は
2.4 GHz帯を使用し
ます。変調方式とし
てFH-SS変調方式を
採用し、与干渉距離
は10 mです。

機器認定について

本機は、電波法に基づく小電力データ通信システムの無線設備として、認証を受けています。従って、本機を使用するときに無線局の免許は必要ありません。

ただし、以下の事項を行うと法律に罰せられることがあります。

- 本機を分解／改造すること

テレビ画面に色むらが起きたら

本機のスピーカーによりテレビ画面に色むらが起きた場合は、テレビの電源を切り、15～30分後に再びスイッチを入れてください。それでも色むらが残るときは、本機をさらにテレビから離してください。

商標について

本機はドルビーデジタル^{*1}およびDolby Digital Plus、Dolby TrueHD デコーダー、MPEG-2 AAC (LC) デコーダー、DTS^{*2} およびDTS 96/24デコーダー、DTS-HD デコーダーを搭載しています。

^{*1} ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。Dolby、ドル

ビー、“AAC”ロゴ及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。

^{*2} 米国特許番号5,956,674、5,974,380、6,226,616、6,487,535、7,212,872、7,333,929、7,392,195、7,272,567、その他米国および米国国外で発効または申請中の特許に基づき製造されています。DTS-HD、シンボル、およびDTS-HDとシンボルの組み合わせはDTS, Inc.の登録商標です。製品にはソフトウェアが含まれています。© DTS, Inc. 不許複製。

BLUETOOTH®とそのロゴマークは、Bluetooth SIG, INC. の商標で、ソニーはライセンスに基づき使用しています。

本機は、High-Definition Multimedia Interface (HDMI®) 技術を搭載していません。

HDMI、HDMI High-Definition Multimedia Interface およびHDMIロゴは、HDMI Licensing LLCの商標もしくは米国およびその他の国における登録商標です。

“BRAVIAリンク” および “BRAVIA Link” ロゴは、ソニー株式会社の登録商標です。

“x.v.Color” および “x.v.Color” ロゴは、ソニー株式会社の商標です。

“ウォークマン”、“WALKMAN”、“WALKMAN”ロゴは、ソニー株式会社の登録商標です。

“PlayStation®” は株式会社ソニー・コンピュータエンタテインメントの登録商標です。

NマークはNFC Forum, Inc.の米国およびその他の国における商標あるいは登録商標です。

AndroidはGoogle Inc.の商標です。

「おサイフケータイ」は株式会社NTTドコモの登録商標です。

その他、本書に記載されているシステム名、製品名は、一般に各開発メーカーの登録商標あるいは商標です。

BLUETOOTH 無線技術について

BLUETOOTH機能の対応バージョンとプロファイル

プロファイルとは、BLUETOOTH機器の特性ごとに機能を標準化したものです。本機が対応するBLUETOOTHバージョンとプロファイルについて詳しくは、「主な仕様」(40ページ)をご覧ください。

ご注意

- BLUETOOTH機能を使うには、相手側BLUETOOTH機器が本機と同じプロファイルに対応している必要があります。ただし、同じプロファイルに対応していても、BLUETOOTH機器の仕様により機能が異なる場合があります。
- BLUETOOTH無線技術の特性により、送信側での音声・音楽再生に比べて、本機側での再生がわずかに遅れます。

通信有効範囲

見通し距離で約10 m以内で使用してください。

以下の状況においては、通信有効範囲が短くなることがあります。

- － BLUETOOTH接続している機器の間に、人体や金属、壁などの障害物がある場合
- － 無線LANが構築されている場所
- － 電子レンジを使用中の周辺
- － その他の電磁波が発生している場所

他機器からの影響

BLUETOOTH機器と無線LAN (IEEE802.11b/g) は同一周波数帯 (2.4 GHz) を使用するため、無線LANを搭載した機器の近辺で使用すると、電波干渉が発生し、通信速度の低下、雑音や接続不能の原因になる場合があります。この場合、次の対策を行ってください。

- － 本機とBLUETOOTH機器を接続するときは、無線LANから10 m以上離れたところで行う。
- － 10 m以内で使用する場合は、無線LANの電源を切る。

他機器への影響

BLUETOOTH機器が発生する電波は、電子医療機器などの動作に影響を与える可能性があります。場合によっては事故を発生させる原因になりますので、次の場所では本機およびBLUETOOTH機器の電源を切ってください。

- － 病院内／電車内／航空機内／ガソリンスタンドなど引火性ガスの発生する場所
- － 自動ドアや火災報知機の近く

ご注意

- 本機は、BLUETOOTH無線技術を使用した通信時のセキュリティーとして、BLUETOOTH標準規格に準拠したセキュリティー機能に対応しておりますが、設定内容等によってセキュリティーが充分でない場合があります。BLUETOOTH無線通信を行う際はご注意ください。

- BLUETOOTH技術を使用した通信時に情報の漏洩が発生し、弊社としては一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 本機と接続するBLUETOOTH機器は、Bluetooth SIG, INC.の定めるBLUETOOTH標準規格に適合し、認証を取得している必要があります。ただし、BLUETOOTH標準規格に適合していても、BLUETOOTH機器の特性や仕様によっては、接続できない、操作方法や表示・動作が異なるなどの現象が発生する場合があります。
- 本機と接続するBLUETOOTH機器や通信環境、周囲の状況によっては、雑音が入ったり、音が途切れたりすることがあります。

目次

安全のために	2
使用上のご注意	6
BLUETOOTH無線技術について	8

接続と準備

箱の中身を確認する	11
各部の名前と働き	12
テレビやレコーダーなどを つなぐ	16
本機を設置する	18
ワイヤレスサウンドシステムの 設定をする	20

操作と特長

本機のリモコンで操作する	21
HDMI機器制御機能を使う	21
“ブラビアリンク”を使う	22
つないだ機器の音声出力を 設定する	23

BLUETOOTH接続で聞く

BLUETOOTH接続を準備する	24
------------------------	----

サラウンド効果

サラウンド効果を楽しむ	29
-------------------	----

詳細な設定

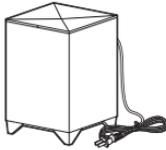
アンプメニューの設定をする	30
ワイヤレス接続をする (LINK)	33

その他

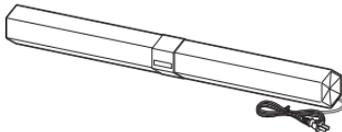
故障かな?と思ったら	35
保証書とアフターサービス	38
主な仕様	40
索引	43

箱の中身を確認する

- サブウーファー (1)



- サウンドバー (1)



- 光デジタル音声コード (テレビ接続用) (1)
- アナログ音声コード (ステレオミニ) (1)
- センタースタンド (1)



- サイドスタンド (正面用) (2)



- サイドスタンド (斜め上向き用) (2)

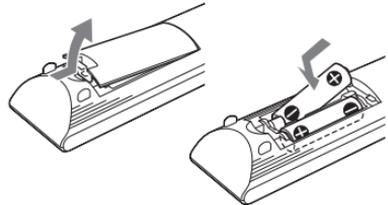


- スタンド取り付け用ネジ (2)
- リモコン (RM-ANP107) (1)
- 単3形乾電池 (2)

- 取扱説明書 (本書) (1)

リモコンに電池を入れる

＋と－の向きを合わせて、単3形乾電池 (付属) 2本を入れてください。リモコンは本機のリモコン受光部 (R) に向けて操作してください。



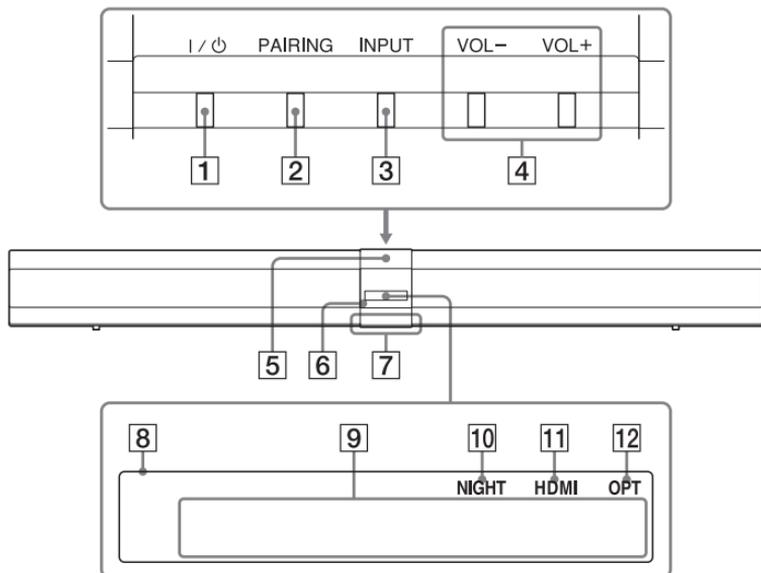
ご注意

- 高温、多湿の場所を避けて保管してください。
- 新しい乾電池と使った乾電池を混ぜて使わないでください。
- 乾電池を交換するときは、異物が入らないようにご注意ください。
- リモコンを使うときは、リモコン受光部に直射日光や照明器具などの強い光が当たらないようにご注意ください。リモコンで操作できないことがあります。
- 長い間リモコンを使わないときは、液漏れや破裂を避けるために乾電池を取り出してください。

各部の名前と働き

詳しい説明は（ ）内のページをご覧ください。

サウンドバー



① I/⏻ (電源) ボタン

② ペアリング PAIRING ボタン (25ページ)

③ インプット INPUT (入力切換) ボタン
再生する入力ソースを選びます。

④ ボリューム VOL (音量) + / - ボタン

⑤ Nマーク

⑥  リモコン受光部

⑦ イルミネーションLED

電源オン時：白色に点灯します。
BLUETOOTH時：青色に点灯します。

⑧ 表示窓

⑨ メッセージ表示領域

音量や選ばれている外部入力などを表示します。

⑩ ナイト NIGHT (31ページ)

NIGHT モードのときに点灯します。

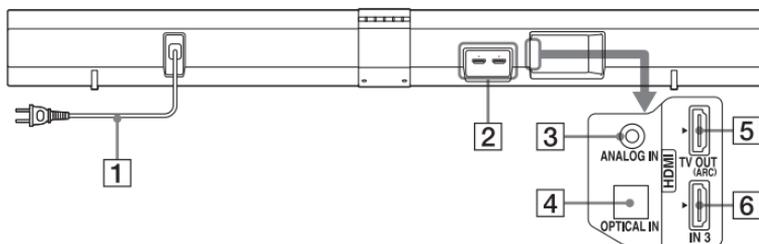
11 HDMI

HDMI端子からの信号が選ばれているときに点灯します。

12 OPT

OPTICAL IN端子からの信号が選ばれているときに点灯します。

背面



1 電源コード (16ページ)

2 HDMI IN 1/IN 2端子 (16ページ)

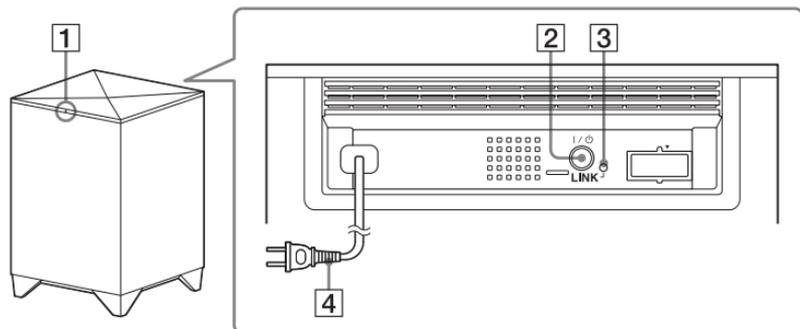
3 ANALOG IN端子 (17ページ)

4 OPTICAL IN端子 (16、17ページ)

5 HDMI TV OUT (ARC) 端子 (16ページ)

6 HDMI IN 3端子 (16ページ)

サブウーファー



1 I/⏻ (電源) ランプ

2 I/⏻ (電源) ボタン

3 LINK ボタン (34ページ)

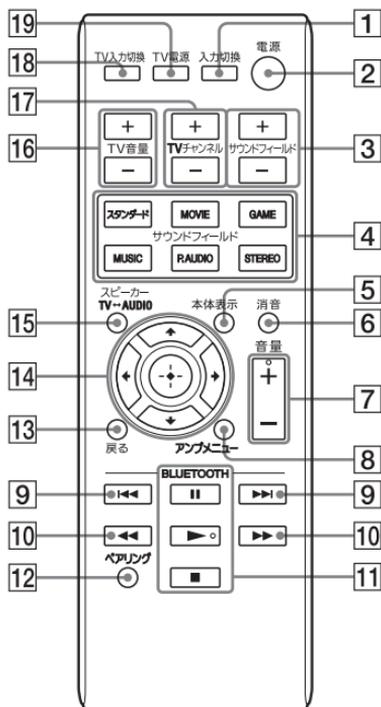
4 電源コード (16ページ)

リモコン

付属のリモコンを使って、本機やつないだ機器を操作することができます。機器によっては操作できないことがあります。その場合は、その機器のリモコンで操作してください。

ご注意

- リモコンは、本機のリモコン受光部 (図) に向けて操作してください。



- * ▶ ボタン、音量+ボタンには、凸点 (突起) が付いています。操作の目印として、お使いください。

本機の操作

- 1 入力切替ボタン (21ページ)
使用する機器を選びます。
- 2 電源ボタン
- 3 サウンドフィールド+/-ボタン (29ページ)
- 4 サウンドフィールドボタン (29ページ)
- 5 本体表示ボタン
押すたびに点灯と消灯が切り換わります。本機を操作したときに、数秒間表示窓が点灯します。
- 6 消音ボタン
- 7 音量+*/-ボタン
- 8 アンプメニューボタン (30ページ)
- 12 ペ어링ボタン (25ページ)
- 13 戻るボタン
ひとつ前の表示画面に戻ります。
- 14 ← (戻る) / ↑ ↓ (選択) / → (進む)、⊕ (決定)
←、↑、↓、→ ボタンを押して設定を選び、⊕ ボタンで決定します。
- 15 スピーカー TV ↔ AUDIO ボタン
スピーカーから出力する音声 (テレビまたは本機) を切り換えます。

テレビの操作

- 16 TV音量+/-ボタン
テレビの音量を調節します。

- 17 TVチャンネル+/-ボタン
チャンネルを切り換えます。
- 18 TV入力切換ボタン
テレビの入力を切り換えます。
- 19 TV電源ボタン
本機のリモコンで操作できるテレビの電源を入/切します。

BLUETOOTH接続した機器の操作

- 9 ◀◀/▶▶ボタン
曲をスキップします。
- 10 ◀◀/▶▶ボタン
再生中の曲の早戻し/早送りをします。
- 11 再生操作ボタン
▶* (再生) / ◻ (一時停止) / ◼ (停止)
再生を開始/一時停止/停止します。一時停止中にもう一度 ◻ (一時停止) を押すと通常再生に戻ります。

ご注意

- 上記の説明は基本的な操作の一例です。つないでいる機器によっては操作できないか、または表とは異なった動作をする場合があります。

テレビのメーカーを設定する

- 1 TV電源ボタンを押しながら、設定したいメーカーに該当するボタンを押す。

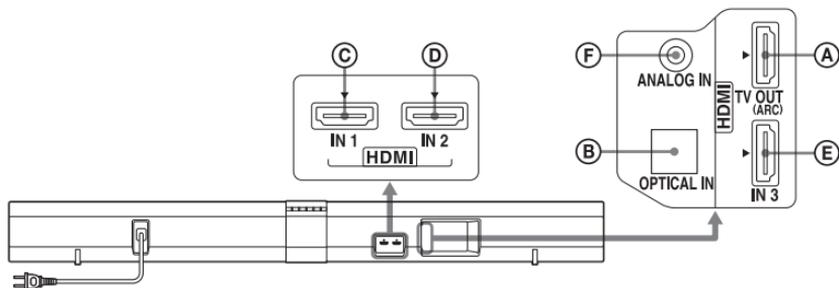
メーカー	ボタン
ソニー	16 TV音量+
三菱	17 TVチャンネル+
LG	3 サウンドフィールド+
パナソニック	16 TV音量-
日立	17 TVチャンネル-
シャープ	3 サウンドフィールド-
東芝	4 スタンダード

- 2 TV電源ボタンを押し続けて⊕を押す。

- 3 TV電源ボタンを離す。

テレビやレコーダーなどをつなぐ

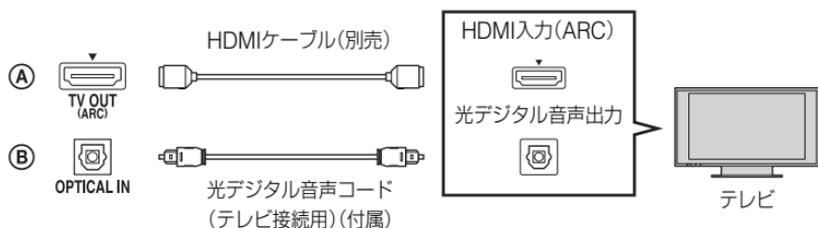
他の機器やテレビをつないでから、本機およびサブウーファースの電源コードを壁のコンセントにつないでください。サウンドバーとサブウーファースはワイヤレス接続のため、コードを使った接続は必要ありません。



テレビをつなぐ

オーディオリターンチャンネル（ARC）機能に対応しているテレビの「ARC」と表記のあるHDMI入力端子につないだ場合、光デジタル音声コードの接続は不要です。

光デジタル音声コードにキャップがついている場合は、はずしてからつないでください。



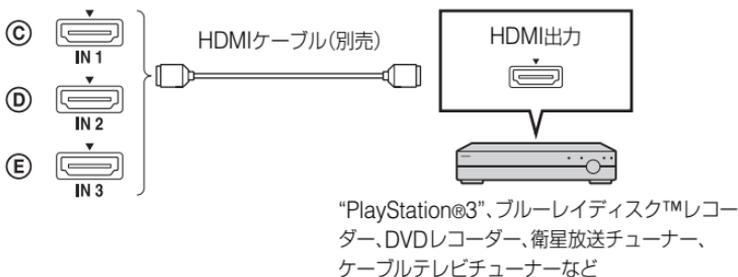
ご注意

- オーディオリターンチャンネル（ARC）機能に対応しているテレビのHDMI入力端子には「ARC」と表記されています。それ以外のHDMI入力端子につないでも、オーディオリターンチャンネル（ARC）機能は動きません。
- オーディオリターンチャンネル（ARC）機能はHDMI機器制御機能がオン（入）のときに有効です。本機のHDMI機器制御機能をオフ（切）にした場合は、光デジタル音声コードを接続してください。
- 機器をOPTICAL IN端子とHDMI IN端子に同時につないだ場合、お買い上げ時の設定では、HDMI IN端子からの信号が優先されます。

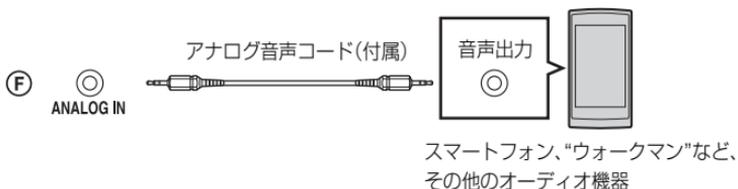
ちょっと一言

- 本機の電源がオフ（スタンバイ）のときでも、テレビにHDMI信号が伝送されて、つないだ機器の映像と音声をテレビで楽しむことができます。

HDMI端子がある機器をつなぐ



オーディオ機器をつなぐ



ご注意

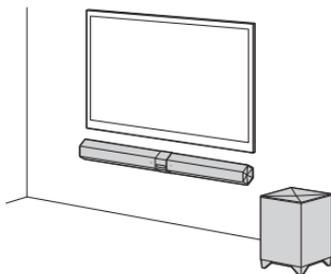
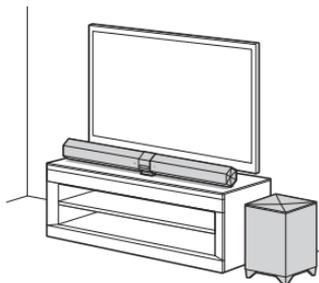
- ANALOG IN端子に携帯音楽プレーヤーなどのヘッドホン端子をつなぐときは、他の入力との音量差をなくすため、携帯音楽プレーヤー側で音量を調節してください。

本機を設置する

下図はサウンドバーの設置のしかたの例です。

本機の設置のしかた

- サウンドバーをラックなどの上に設置する（19ページ）
- サウンドバーを壁に取り付ける（19ページ）



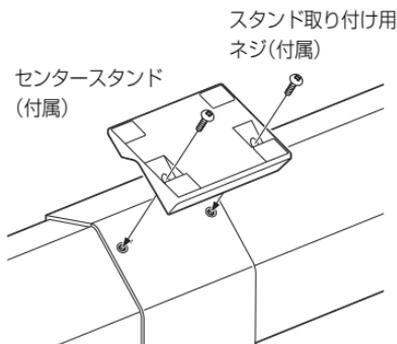
ご注意

- サウンドバーおよびサブウーファーを設置するときは、以下の点にご注意ください。
 - 背面の通風孔をふさがない。
 - 金属製キャビネットに入れない。
 - サウンドバーとサブウーファーの間に水槽などを置かない。
 - サウンドバーとサブウーファーは同じ室内で、距離を近づけて設置する。
- サウンドバーをテレビの前に設置すると、テレビのリモコンでテレビを操作できなくなることがあります。そのような場合は、サウンドバーをテレビからなるべく離して設置してください。それでも操作できないときは、アンプメニューで「IR REP」を「ON」に設定してください（32ページ）。
- 「IR REP」はテレビのリモコンでテレビを操作できないことを確認してから「ON」に設定してください。操作できるときに「ON」にすると、テレビのリモコンからの直接の信号と本機を経由した信号が影響しあい、正しく動作しないことがあります。

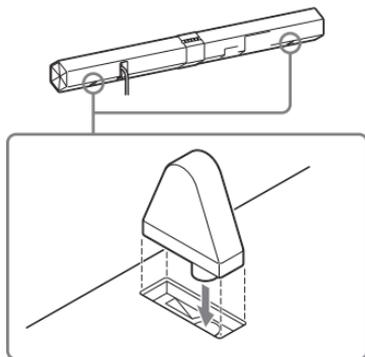
サウンドバーをラックなどの上に設置する

サウンドバーを正面に向けて使用する場合

1 センタースタンドを取り付ける。

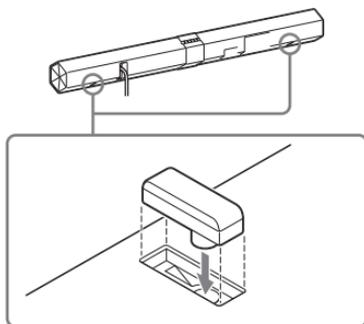


2 サイドスタンド (正面用) をはめこむ。



サウンドバーを斜めに傾けて使用する場合

1 サイドスタンド (斜め上向き用) をはめこむ。



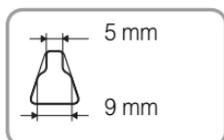
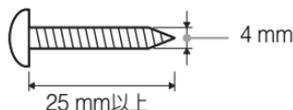
サウンドバーを壁に取り付ける

下記の手順でサウンドバーを壁に取り付けることができます。

ご注意

- 壁の材質や強度に合わせたネジを使ってください。壁の材質によっては破損する恐れがあります。ネジは柱部分にしっかりと固定してください。サウンドバーは補強された壁に水平に取り付けてください。
- 販売店や工事店に依頼して、安全性に充分考慮して確実な取り付けを行ってください。
- 取り付けの不備、取り付け強度不足、誤使用、天災などによる事故、損傷につきましては、当社は一切責任を負いません。

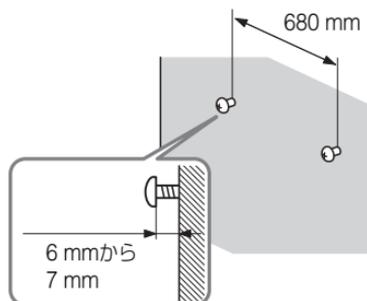
- 1** サウンドバー背面の穴に合う市販のネジを用意する。



サウンドバー背面の穴

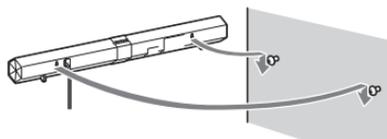
- 2** 壁にネジをとめる。

ネジが壁から6 mmから7 mm突き出すようにとめてください。



- 3** サウンドバー背面の穴をネジにかける。

サウンドバー背面の穴とネジの位置を合わせてから、2箇所同時に取り付けてください。



ワイレスサウンドシステムの設定をする

本機につないだ機器の音声をワイレスでサブウーファーに転送します。

- 1** サウンドバーの電源コードをコンセントにつなぐ。

- 2** サブウーファーの電源コードをコンセントにつなぐ。

サブウーファーのI/O（電源）ランプが赤色に点灯します。

点灯しない場合は、サブウーファーのI/O（電源）ボタンを押して、赤色に点灯するまでお待ちください。

- 3** サウンドバーのI/O（電源）ボタンを押す。

ワイレス接続が完了すると、サブウーファーのI/O（電源）ランプが緑色に点灯します。

緑色に点灯しない場合は「ワイレス接続をする（LINK）」（33ページ）の手順を行ってください。

操作と特長

本機のリモコンで操作する

- 1 電源ボタンを押して本機の電源を入れる。
- 2 入力切換ボタンを押して、本機の表示窓に入力名を表示させる。

選んだ入力	再生する機器
TV	HDMI TV OUT (ARC)、または OPTICAL IN端子につないだテレビ
HDMI 1	HDMI IN1端子につないだ機器
HDMI 2	HDMI IN2端子につないだ機器
HDMI 3	HDMI IN3端子につないだ機器
ANALOG	ANALOG IN端子につないだ機器
BT AU	BLUETOOTH接続をしている機器

- 3 音量+ / - ボタンで本機の音量を調節する。

ちょっと一言

- テレビのスピーカーからも音が出ることがあります。その場合は、テレビの音量を最小にしてください。

HDMI機器制御機能を使う

本機のHDMI機器制御機能の設定を有効にし（CTRL、31ページ）、HDMI機器制御機能に対応している製品をHDMIケーブルでつなぐと、下記のような機能を使って操作を簡単に行うことができます。

電源オフ連動

テレビの電源オフに連動して、本機とつないだ機器の電源も切ることができます。

システムオーディオコントロール

テレビを視聴しているときに本機の電源を入れると、テレビの音声は自動的に本機のスピーカーから出力されます。テレビの音量を調節すると、本機の音量を調節できます。前回テレビの電源を切ったときに本機のスピーカーから音を出していた場合は、次にテレビの電源を入れたときに、本機の電源が自動で入り、テレビの音声は自動的に本機のスピーカーから出力されます。

オーディオリターンチャンネル

オーディオリターンチャンネル (ARC) 機能に対応したテレビの場合は、HDMIケーブルをつないでただでテレビの音声を本機のスピーカーで聞くことができます (ARC、31ページ)。

ワンタッチプレイ

本機にHDMIケーブルで接続した機器を再生すると、自動的にテレビの電源が入り、本機の入力が切り換わります。

ご注意

- 製品により、対応しないものがあります。
- つないだ機器の設定によっては、HDMI機器制御機能が働かないことがあります。詳しくは、お使いの機器に付属の取扱説明書をご覧ください。

“ブラビアリンク”を使う

ブラビアリンク対応製品では、ソニー独自の以下の機能も使うことができます。

HDMI信号パススルー機能の省電力設定

“ブラビアリンク”に対応したテレビをお使いのときは、本機のHDMI信号パススルー機能を「AUTO」に設定してテレビの電源を切ると、HDMI信号パススルーを停止させ、本機のスタンバイ時の消費電力を削減することができます (P. THRU、31ページ)。

オートジャンルセクター

「オートジャンルセクター」に対応のテレビをお使いのときは、視聴中のデジタル放送の番組情報 (EPG情報) を取得して、番組のジャンルに応じたサウンドフィールドに自動的に切り換えることができます (S. FIELD、31ページ)。

シーンセレクト連動

「シーンセレクト連動」に対応のテレビをお使いのときは、テレビのシーンセレクトに応じて本機のサウンドフィールドが切り換わります。

HDMI端子の接続について

- High Speed HDMIケーブルをご利用ください。Standard HDMIケーブルの場合、1080pやDeep Color、3D/4Kの映像が正しく表示できない場合があります。
- 認証を受けたHDMIケーブルまたはソニー製のHDMIケーブルをおすすめします。
- HDMI-DVI変換ケーブルの使用はおすすめしません。
- HDMIケーブルでつないだ機器の映像がきれいに映らなかつたり、音が出ないときは、つないだ機器側の設定もご確認ください。
- つないだ機器からの音声出力信号のチャンネル数やサンプリング周波数が切り換えられた場合、音声が途切れることがあります。
- つないだ機器が著作権保護技術（HDCP）に対応していないために、本機のHDMI TV OUT（ARC）端子の映像や音声乱了り再生できない場合があります。このような場合は、つないだ機器の仕様をご確認ください。
- 本機の入力が「TV」のときは、HDMI TV OUT（ARC）端子からは前回選択されたHDMI入力（HDMI IN1/IN2/IN3）の映像が出力されます。
- 本機はDeep Color、“x.v.Color”、3Dおよび4K伝送に対応しています。

- 3D映像を楽しむには、3D表示に対応したテレビおよび映像機器（ブルーレイディスクレコーダー、“PlayStation®3”など）と本機をHDMIケーブルでつなぎ、3Dメガネを装着したうえで、3D対応のブルーレイディスクなどを再生してください。
- 4K映像を楽しむには、本機に接続しているテレビやプレーヤー機器も4K映像に対応している必要があります。

つないだ機器の音声出力を設定する

マルチチャンネルデジタル音声を出力するには、つないだ機器のデジタル音声設定を確認してください。詳しくは、お使いの機器に付属の取扱説明書をご覧ください。

BLUETOOTH接続で聞く

BLUETOOTH 接続を準備する

オートペアリングする

本機に1台も機器が登録されていない場合は、あらかじめ接続する機器を登録しておく必要があります。この登録のことをペアリングといいます。リモコンの入力切換ボタンで「BT AU」を選ぶと、本機はペアリングモードになります。

1 本機とBLUETOOTH搭載機器を1 m以内に置く。

2 入力切換ボタンを押して「BT AU」を選ぶ。

3 BLUETOOTH搭載機器をペアリングモードにする。

BLUETOOTH搭載機器側をペアリングモードにする方法は、お使いの機器に付属の取扱説明書をご覧ください。

4 BLUETOOTH搭載機器に検出した機器の一覧が表示されたら、一覧に「HT-CT660」があることを確認する。

BLUETOOTH搭載機器によっては、検出した機器の一覧が表示できない場合があります。

5 BLUETOOTH搭載機器の検出した機器の一覧から「HT-CT660」を選ぶ。

BLUETOOTH搭載機器によっては、パスコードの入力を要求されます。その場合は、本機のパスコード「0000」を入力してください。

6 BLUETOOTH搭載機器から、BLUETOOTH接続操作を行う。

正しく接続できると、イルミネーションLEDが青色に点灯し、ペアリング情報が本機に記録されます。

BLUETOOTHのLED表示について

イルミネーションLEDで

BLUETOOTHの状態次のようにお知らせします。

本機の状態	LEDの状態
BLUETOOTH ペアリング中	速く点滅
接続待機中	点滅
接続完了	点灯
BT Standby中 (電源オフ時)	ゆっくり点滅

ご注意

- 接続する機器の使いかたについて詳しくは、お使いの機器に付属の取扱説明書をご覧ください。
- 接続するBLUETOOTH搭載機器が、A2DP (Advanced Audio Distribution Profile) に対応している必要があります。
- BLUETOOTH搭載“ウォークマン”などのBLUETOOTH搭載機器は、サウンドバーを見通せる同一室内でお使いください。
- Wi-Fi機器をお使いの場合、BLUETOOTH通信が不安定になることがあります。その場合、BLUETOOTH搭載機器は、できるだけサウンドバーの近くでお使いください。
- BLUETOOTH搭載機器側の問題により音が途切れることがあります。
- 一度機器を登録すれば、再びペアリングする必要はありませんが、以下の場合は再度ペアリングが必要です。
 - － 修理を行ったなど、登録した機器の情報が消去されてしまったとき。

- － 10台以上の機器を登録しようとしたとき。

本機は9台までの機器を登録することができます。9台分を登録したあと新たな機器をペアリングすると、9台のなかで最後に接続した日時が最も古い機器の登録情報が、新たな機器の情報で上書きされます。

- － 接続相手の機器から、本機との接続履歴が削除されたとき。
- － 本機を初期化した場合は、すべての機器の登録情報が消去されます。

手動でペアリングする

本機に2台目以降のBLUETOOTH搭載機器を登録したいときは、手動でのペアリングが必要です。

1 本機とBLUETOOTH搭載機器を1 m以内に置く。

2 リモコンのペアリングボタンを押す。

またはサウンドバーのPAIRINGボタンを押す。

3 「オートペアリングする」(24ページ)の手順3~6を実行する。

ご注意

- パスコードは、パスキー、PINコード、PINナンバー、パスワードなどと呼ばれる場合があります。
- 本機のペアリングモードは約5分で解除されます。ペアリングが完了しないときは、もう一度手順1から行ってください。
- 複数のBLUETOOTH機器とペアリングするには、ペアリングしたい機器ごとに手順1~3を繰り返してください。
- 本機に1台も機器の情報が登録されていない場合、入力を「BT AU」に切り換えると自動的にペアリングモードになります。このとき、ペアリングモードは自動では解除されません。

ワンタッチ (NFC) でスマートフォンと接続する

スマートフォンでタッチするだけで、BLUETOOTH機器の登録や接続が行われ、自動的に本機の電源が入ります。

NFCとは

携帯電話やICタグなど、さまざまな機器間で近距離無線通信を行うための技術です。指定の場所に「タッチする」だけで、簡単にデータ通信が可能となります。

対応するスマートフォン

NFC機能またはおサイフケータイ機能を搭載したスマートフォン
(対応OS：Android 2.3.3以降、Android 3.xを除く)

1 スマートフォンに「NFC簡単接続」アプリをダウンロードする。

Google Playで入手できるAndroid専用の無料のアプリです。「NFC簡単接続」で検索するか、以下の二次元コードでアクセスし、アプリをダウンロードします。ダウンロードには別途通信料が発生します。二次元コード読み取りアプリでご利用ください。



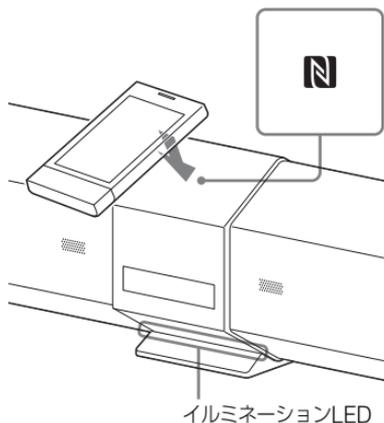
2 本機の電源を入れる。

3 スマートフォンで「NFC簡単接続」を起動する。

アプリの画面が表示されていることを確認します。

4 スマートフォンを本機にタッチする。

本機のNマーク部分にスマートフォンをタッチします。スマートフォンが振動するまで、タッチし続けてください。



スマートフォンの画面の指示に従って接続を完了してください。イルミネーションLED（青色）が点滅から点灯に変わったら、本機と機器が接続された状態になります。

接続を切断するには、もう一度タッチします。

ちょっと一言

- 接続がうまくいかないときは次のことを行ってください。
 - スマートフォンでアプリを起動し、本機のNマーク部分の上でゆっくり動かす。
 - スマートフォンにケースを付けている場合は、ケースをはずす。
- お使いのスマートフォンによっては、「NFC簡単接続」をダウンロードしなくてもワンタッチ接続が可能な場合があります。その場合の挙動や仕様は本書の説明と異なる場合があります。詳しくは、お使いのスマートフォンの取扱説明書を確認してください。

BLUETOOTH接続で音楽を聞く

本機はSCMS-T方式でコンテンツ保護された音声を受信することができません。

操作をはじめる前に、以下の点をご確認ください。

- 相手側のBLUETOOTH搭載機器のBLUETOOTH機能が有効になっている。
- 本機と相手側のBLUETOOTH搭載機器のペアリングが完了している。

1 入力切換ボタンを押して、入力を「BT AU」にする。

2 相手側のBLUETOOTH搭載機器から本機へ、BLUETOOTH接続を開始する。

正しく接続できるとイルミネーションLEDが青色に点灯します。

3 リモコンまたはBLUETOOTH搭載機器を操作して、再生を開始する。

操作方法について詳しくは「BLUETOOTH接続した機器の操作」（15ページ）をご覧ください。

4 音量を調節する。

BLUETOOTH搭載機器を適度な音量にして、音量+/-ボタンで調節します。

ちょっと一言

- AVRCP (Audio Video Remote Control Profile)のVOLUME UP/DOWNに対応するBLUETOOTH搭載機器で、音量を調整することができます。詳しくは、BLUETOOTH搭載機器の取扱説明書をご覧ください。
- 機器によっては音量調節ができないものもあります。

ご注意

- BLUETOOTH搭載機器のバスブースト機能やイコライザー機能は無効にしてください。これらの機能が有効になっていると音がひずむことがあります。
- 次のような場合、BLUETOOTH接続のやり直しが必要です。
 - 本機の電源が入っていない。
 - BLUETOOTH搭載機器の電源が入っていないか、BLUETOOTH機能がオフになっている。
 - BLUETOOTH接続が完了していない。
- 複数のBLUETOOTH搭載機器とペアリングの設定をしていると、どれか1台のBLUETOOTH搭載機器の音が聞こえません。

BLUETOOTH接続を切断するには

以下の手順のいずれかでBLUETOOTH接続を切断してください。

- BLUETOOTH搭載機器を操作して接続を切断する。詳しくは、機器に付属の取扱説明書をご覧ください。
- BLUETOOTH搭載機器の電源を切る。
- 本機の電源を切る。

サラウンド効果

サラウンド効果を楽しむ

本機ではマルチチャンネルサラウンド効果を楽しむことができます。お好みのサウンドフィールドを選んでください。



サウンドフィールド+ / -ボタン、またはお好みのサウンドフィールドボタンを押す。

選ばれているサウンドフィールドが本機の表示窓に表示されます。

サウンドフィールドのお買い上げ時の設定は、「ANALOG」または「BT AU」のときは「P. AUDIO」、それ以外の入力では「STD」です。

サウンドフィールドの種類

サウンドフィールド	効果
STD (スタンダード)	どんなソースにも幅広く対応します。
MOVIE	セリフが聞き取りやすく、迫力のあるサウンドと臨場感が楽しめます。
DRAMA	テレビドラマのセリフが聞き取りやすくなります。
NEWS	アナウンサーの音が聞き取りやすくなります。
SPORTS	解説が聞き取りやすく、歓声などがサラウンドで聞こえ、臨場感が楽しめます。
GAME	ゲームに最適な迫力あるサウンドと臨場感が楽しめます。
MUSIC	音楽番組や音楽系のブルーレイディスク、DVDに最適な音質で楽しめます。
P. AUDIO (ポータブルオーディオ)	携帯用ミュージックプレーヤーに最適な音質で楽しめます。
STEREO	音楽CDに最適な音質です。

ちょっと一言

- サウンドフィールドは入力ごとに設定できます。

アンプメニューの設定をする

アンプメニューを使う

リモコンのアンプメニューボタンを押すと、下記の設定ができます。

お買い上げ時の設定は下線の項目です。

電源コードを抜いても、お客様の行った設定は保持されます。

- 1** アンプメニューボタンを押して、アンプメニュー画面を表示させる。
- 2** ← (戻る) / ↑ ↓ (選択) / → (進む) を繰り返し押して設定したい項目を選び、⊕を押して決定する。
- 3** アンプメニューボタンを押して、アンプメニュー画面の表示を消す。

メニュー一覧

メニュー項目	機能
LEVEL	VOICE
	ボイスのレベルを調節できます。 • 「-6」から「+6」まで、1ずつ設定します。
	SW LVL
	サブウーファースのレベルを調節できます。 • 「-6」から「+6」まで、1ずつ設定します。
	DRC (DYNAMIC RANGE CONTROL)
	小さい音量でドルビーデジタルサウンドを楽しむときに便利です。 • 「ON」：コンテンツ内の情報に基づいて音声を圧縮します。 • 「AUTO」：Dolby TrueHDのとき、自動的に音声を圧縮します。 • 「OFF」：音声は圧縮されません。
TONE	BASS
	音声の低域のレベルを調節できます。 • 「-6」から「+6」まで、1ずつ設定します。
	TREBLE
	音声の高域のレベルを調節できます。 • 「-6」から「+6」まで、1ずつ設定します。

メニュー項目	機能	
AUDIO	SYNC (AV SYNC)	映像が音声より遅れている場合、音声を遅らせて、音声と映像のずれを調節します。 <ul style="list-style-type: none"> 「ON」：SYNC機能を有効にします。 「OFF」：SYNC機能を無効にします。
	DUAL (DUAL MONO)	AAC音声の2か国語放送時に主副音声を切り換えます。 <ul style="list-style-type: none"> 「M/S」：左スピーカーから主音声、右スピーカーから副音声を同時に出力します。 「MAIN」：主音声のみを出力します。 「SUB」：副音声のみを出力します。
	NIGHT	小さい音量でも音響効果やセリフの明瞭さを失わずに音声を楽しめます。 <ul style="list-style-type: none"> 「ON」：NIGHT機能を有効にします。 「OFF」：NIGHT機能を無効にします。
HDMI	CTRL (CONTROL FOR HDMI)	<ul style="list-style-type: none"> 「ON」：HDMI機器制御機能を有効にします。 「OFF」：HDMI機器制御機能を無効にします。“ブラビアリンク”やHDMI機器制御機能に対応していない機器をつなぐときはこの設定を選びます。
	S. FIELD* (SOUND FIELD)	サウンドフィールドの設定を変更します。 <ul style="list-style-type: none"> 「AUTO」：デジタル放送のテレビ番組のジャンルに応じてサウンドフィールドが自動的に切り換わります（オートジャンルセレクター）。番組情報別のサウンドフィールド対応については、33ページの表をご覧ください。 「MANUAL」：サウンドフィールド+/-ボタンで選んだサウンドフィールドで音声を出力します。
	P. THRU* (PASS THROUGH)	<ul style="list-style-type: none"> 「AUTO」：本機スタンバイ時に、テレビの電源状態に合わせて、本機のHDMI OUT TV (ARC)端子から信号を出力します。「ON」設定時よりもスタンバイ時の消費電力を削減できます。 「ON」：本機スタンバイ時に、HDMI OUT TV (ARC)端子から、常に信号を出力します。
	ARC* (AUDIO RETURN CHANNEL)	<ul style="list-style-type: none"> 「ON」：オーディオリターンチャンネル（ARC）対応のテレビをHDMIケーブルで接続し、HDMIケーブル経由でデジタル音声を聞きます。 「OFF」：光デジタル音声コードで接続し、光デジタル音声コード経由でデジタル音声を聞きます。

* これらの設定は、「CTRL (CONTROL FOR HDMI)」が「ON」のときのみ表示されます。

メニュー項目	機能
SET BT BT.STBY (BT STANDBY)	<p>本機に登録した機器の情報がある場合、本機の電源オフ時、BLUETOOTH接続待ち状態にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 「ON」：BLUETOOTH接続待ち状態になります。電源オフ中は、イルミネーションLEDがゆっくり青色に点滅します。 • 「OFF」：BLUETOOTHスタンバイ機能を無効にします。 <p>ご注意</p> <ul style="list-style-type: none"> • 本機に登録した機器の情報がない場合は、BLUETOOTHスタンバイ機能が動作しません。 • BLUETOOTHスタンバイモード中は、スタンバイ消費電力が増加します。
AAC	<p>本機BLUETOOTHのAAC対応の有効・無効を切り換えます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 「ON」：AACを有効にします。 • 「OFF」：AACを無効にします。 <p>ご注意</p> <p>BLUETOOTH接続中に設定を変更すると、BLUETOOTH接続は切断されます。</p>
SYSTEM A. STBY (AUTO STANDBY)	<p>本機を操作しないまま一定時間（約30分）が経過し、本機に音声が入力されていないとき、本機の電源を自動的に切り、無駄な電力消費を抑えます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 「ON」：AUTO STANDBY機能を有効にします。 • 「OFF」：AUTO STANDBY機能を無効にします。
IR REP	<p>テレビのリモコン信号を中継します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 「ON」：リモコン信号の中継機能を有効にします。 • 「OFF」：リモコン信号の中継機能を無効にします。
VER	<p>本機のバージョン情報が表示されます。</p>
WS LINK	<p>ワイヤレスサウンドシステムを再度リンクさせたいときに使用します（33ページ）。</p>
RF CHK	<p>本機のワイヤレスサウンドシステムが通信可能な状態かどうかを表示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 「RF OK」：通信可能な状態です。 • 「RF NG」：通信できない状態です。

番組情報対応表

オートジャンルセレクターでサウンドフィールドが以下のように切り換わります。

番組情報 (EPG情報)	サウンド フィールド
ニュース／報道	NEWS
スポーツ	SPORTS
情報／ワイド ショー	STD
ドラマ	DRAMA
音楽	MUSIC
バラエティ	STD
映画	MOVIE
アニメ／特撮	STD
ドキュメンタリー	STD
劇場／公演	MUSIC
趣味／教育	NEWS
福祉	NEWS
その他	STD
スポーツ (CS)	SPORTS
洋画 (CS)	MOVIE
邦画 (CS)	MOVIE
情報なし	STD

ご注意

- 番組情報 (EPG情報) に応じてサウンドフィールドが切り換わるとき、音が途切れることがあります。

ちょっと一言

- ブルーレイディスクレコーダーなどでディスクを再生しているときのサウンドフィールドは「STD」になります。この場合、本製品のリモコンでお好みのサウンドフィールドに切り換えることもできます。詳しくは、「サラウンド効果を楽しむ」(29ページ)をご覧ください。

ワイヤレス接続をする (LINK)

ワイヤレス転送の設定をやり直します。

1 アンプメニューボタンを押す。

2 ↑↓ (選択) を繰り返し押しして「WS」を表示させ、⊕または→ (進む) を押す。

3 ↑↓ (選択) を繰り返し押しして「LINK」を表示させ、⊕または→ (進む) を押す。

4 表示窓に「START」が表示されたら⊕を押す。

「SEARCH」が表示され、リンク可能な機器を検索します。1分以内に次の手順に進んでください。機器の検索中にリンク接続を解除するには←を押します。

5 サブウーファースのLINK ボタンをペンの先などで押す。

サブウーファースのI/Oランプが緑色に点灯し、表示窓に「OK」が表示されます。

「FAILED」が表示された場合は、サブウーファースの電源が入っていることを確認し、手順1からやり直してください。

6 アンプメニューボタンを押す。

アンプメニュー表示が消えます。

故障かな？と思ったら

本機の調子がおかしいとき、修理に出す前にもう一度点検してください。それでも正常に動作しないときは、お買い上げ店またはソニーサービス窓口、ソニーの相談窓口（裏表紙）にお問い合わせください。

電源

電源が入らない

→ 電源コードがしっかり差し込まれているか確認する。

本機の電源が勝手に切れてしまう

→ オートスタンバイ機能が働いています（32ページ）。

音声

Dolby DigitalやDTSのマルチチャンネルの音声が再生されない

→ ブルーレイディスクレコーダー/DVDプレーヤーなど、本機につないでいる機器側で、Dolby DigitalやDTSフォーマットの音声設定を確認する。

サラウンド効果が得られない

- サウンドフィールドの設定と入力信号によっては、サラウンド処理による臨場感（29ページ）が得られないことがあります。番組やディスクによってはサラウンド成分が少ないことがあります。
- サラウンド効果機能対応のブルーレイディスクレコーダー/DVDプレーヤーなどをつないでいる場合には、本機のサラウンド効果が得られないことがあります。その場合には、つないだ機器のサラウンド機能の設定をオフにしてください。詳しくは、お使いの機器に付属の取扱説明書をご覧ください。

本機からテレビの音が出ない

- テレビと本機をつないでいる光デジタル音声コード、またはアナログ音声コードの接続を確認する（16ページ）。
- テレビの音声出力設定を確認する。
- オーディオリターンチャンネル（ARC）機能に対応していないテレビをHDMI接続しているときは、光デジタル音声コードも接続する（16ページ）。HDMI接続だけではテレビの音が出ません。

本機とテレビの両方から音が出る

→ 本機またはテレビを消音する。

テレビの音声が映像より遅れる

→ 「SYNC」が「ON」に設定されていたら、「SYNC」を「OFF」に設定する（31ページ）。

サウンドバーまたはサブウーファーからつないだ機器の音が出ない、または音が小さい

- 音量+ボタンを押し、音量を確認する。
- 消音ボタンや音量+ボタンを押して、消音機能を解除する。
- つないだ機器が正しく選択されているか確認する。
- つないだ機器の端子と本機の端子が、奥までしっかり差し込まれているか確認する。

BLUETOOTH

音が出ない

- 本機とBLUETOOTH搭載機器の距離が離れすぎていないか、無線LANや他の2.4 GHz無線機器や電子レンジなどの影響を受けていないか確認する。
- 本機とBLUETOOTH搭載機器を正しくBLUETOOTH接続しているか確認する。
- 本機とBLUETOOTH搭載機器を再度ペアリングする。

音が途切れる、通信距離が短い

- 無線LANや他のBLUETOOTH搭載機器、電子レンジを使用している場所など、電磁波を発生する機器がある場合は、その機器から離れて使う。
- 本機とBLUETOOTH搭載機器との間に障害物がある場合は、障害物を避けるか取り除く。
- 本機とBLUETOOTH搭載機器をできるだけ近付ける。
- 本機の位置を変える。

- 接続相手のBLUETOOTH搭載機器の位置を変える。
- Wi-FiルーターやパソコンなどのワイヤレスLAN周波数を5 GHz帯に切り換える。

ペアリングできない

- 本機とBLUETOOTH搭載機器をなるべく近付けてからペアリングを行う。

映像より音が遅れる

- 動画を見ている場合、音が映像より遅れて聞こえる場合があります。

BLUETOOTH接続ができない

- 相手側BLUETOOTH搭載機器の電源が入っていてBLUETOOTH機能が有効になっていることを確認する。
- BLUETOOTH接続が切断されている。もう一度BLUETOOTH接続を開始する。

本機のリモコンで、BLUETOOTH搭載機器を操作できない

- BLUETOOTH搭載機器側で操作する。

ワイヤレスサウンドシステム

ワイヤレス転送が有効でない、またはサブウーファーから音が出ない

- I/Oランプの状態を確認する。

・ 消灯：

- サブウーファーの電源コードがしっかり差し込まれているか確認する。
- サブウーファーのI/O（電源）ボタンを押して電源を入れる。

- 赤色に点滅：
 - ーサブウーファ어의 I/O (電源) ボタンを押して電源を切り、サブウーファ어의通気孔がふさがっていないか確認する。
- 緑色にゆっくり点滅、または、赤色に点灯：
 - ーI/Oランプが緑色に点灯するようにサブウーファ어의位置を動かす。
 - ーワイヤレスサウンドシステムの通信状態を確認する (32ページ)。
 - ー「ワイヤレス接続をする (LINK)」 (33ページ) を行う。
- 緑色に速く点滅：
 - ーお近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

音が途切れる、ノイズが出る

- 無線LANや電子レンジを使用している場所など、電磁波を発生する機器がある場合は、その機器から離れて使う。
- サウンドバーとサブウーファ어との間に障害物がある場合は、障害物を避けるか取り除く。
- サウンドバーとサブウーファ어를できるだけ近付ける。
- Wi-FiルーターやパソコンなどのワイヤレスLAN周波数を5 GHz帯に切り換える。

リモコンが機能しない

- 本機の  受光部に向けて操作する。
- リモコンと本機との間に障害物を置かない。
- 電池が古い場合は、すべての電池を新しいものに取り換える。
- リモコンの正しいボタンを押しているか確認する。

その他

HDMI機器制御がうまく働かない

- HDMI接続を確認する (16ページ)。
- テレビのHDMI機器制御機能の設定を行う。
- つないだ機器が“ブラビアリンク”に対応していることを確認する。
- つないだ機器のHDMI機器制御設定を確認する。お使いの機器に付属の取扱説明書をご覧ください。
- 本機の電源コードを抜き差ししたときは、15秒以上待ってから動作させる。
- 映像機器の音声出力をHDMIケーブル以外で本機につなぐと、“ブラビアリンク”が影響して音声が出ないことがあります。その場合は、「CTRL」を「OFF」にする (31ページ) か、映像機器の音声出力端子もテレビにつなぐ。

本機の表示窓に「PROTECT」が表示される

- I/O (電源) ボタンを押して電源を切り、「STBY」が消えたら電源コードを抜き、本機の通気孔がふさがっていないか点検する。

リセット

上記の処置をしても正常に動作しないときはリセットしてください。

- 1 サウンドバーのI/O（電源）ボタンを押して電源を入れる。
- 2 サウンドバーのINPUTボタンとVOL-ボタンを押しながら、I/O（電源）ボタンを押す。
- 3 表示窓に「RESET」と表示されたら、ボタンを離す。
- 4 電源コードを抜く。
アンプメニューやサウンドフィールドなどがお買い上げ時の状態に戻ります。

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この説明書の「故障かな?と思ったら」の項を参考にして、故障かどうかを点検してください。

それでも具合の悪いときはサービス窓口へ

お買い上げ店、または本取扱説明書の裏表紙にあるソニーの相談窓口にご相談ください。

部品の交換について

この製品は、修理の際に交換した部品を再生、再利用する場合があります。その際、交換した部品は回収させていただきます。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは、保証書をご覧ください。

保証期間の経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社では、ステレオの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後8年間保有しています。ただし、故障の状況その他の事情により、修理に代えて製品交換をする場合がありますのでご了承ください。

ご相談になるときは、次のことをお知らせください。

- 型名：HT-CT660
- 故障の状態：できるだけ詳しく
- 購入年月日：
- お買い上げ店：

主な仕様

本機で対応するデジタル入力フォーマット

本機で対応するデジタル入力フォーマットは以下のとおりです。

Dolby Digital	DTS-HD High Resolution Audio*
Dolby Digital Plus*	DTS-HD Low Bit Rate*
Dolby TrueHD*	MPEG2-AAC
DTS	リニアPCM 2ch 48kHz以下
DTS 96/24	リニアPCM最大7.1ch 192kHz以下*
DTS-HD Master Audio*	

* HDMI接続のみで入力可能です。

HDMI部

入力/出力 (HDMI Repeater block)

ファイル	2D	3D		
		Frame packing	Side-by-Side (Half)	Over-Under (Top-and-Bottom)
4096 × 2160p @ 23.98/24 Hz	○	—	—	—
3840 × 2160p @ 29.97/30 Hz	○	—	—	—
3840 × 2160p @ 25 Hz	○	—	—	—
3840 × 2160p @ 23.98/24 Hz	○	—	—	—
1920 × 1080p @ 59.94/60 Hz	○	—	○	○
1920 × 1080p @ 50 Hz	○	—	○	○
1920 × 1080p @ 29.97/30 Hz	○	○	○	○
1920 × 1080p @ 25 Hz	○	○	○	○
1920 × 1080p @ 23.98/24 Hz	○	○	○	○
1920 × 1080i @ 59.94/60 Hz	○	○	○	○
1920 × 1080i @ 50 Hz	○	○	○	○
1280 × 720p @ 59.94/60 Hz	○	○	○	○
1280 × 720p @ 50 Hz	○	○	○	○
1280 × 720p @ 29.97/30 Hz	○	○	○	○
1280 × 720p @ 23.98/24 Hz	○	○	○	○
720 × 480p @ 59.94/60 Hz	○	—	—	—
720 × 576p @ 50 Hz	○	—	—	—
640 × 480p @ 59.94/60 Hz	○	—	—	—

サウンドバー (SA-CT660)

アンプ部

実用最大出力 (非同調駆動、JEITA*1)
フロントL: 85 W、1 kHz、3 Ω
フロントR: 85 W、1 kHz、3 Ω

入力端子

HDMI IN 1/2/3
ANALOG IN
OPTICAL IN

出力端子

HDMI TV OUT (ARC)

BLUETOOTH部

通信方式

BLUETOOTH標準規格 Ver.3.0

出力

BLUETOOTH標準規格 Power Class 2

最大通信距離

見通し距離約10 m*2

使用周波数帯域

2.4 GHz 帯 (2.4000 GHz ~ 2.4835 GHz)

変調方式

FHSS

対応BLUETOOTHプロファイル*3

A2DP1.2 (Advanced Audio Distribution Profile)
AVRCP1.3 (Audio Video Remote Control Profile)

対応コーデック*4

SBC*5、AAC*6

対応コンテンツ保護

SCMS-T方式

伝送帯域 (A2DP)

20 Hz ~ 20,000 Hz (44.1 kHzサンプリング時)

フロントスピーカー部

形式

2way スピーカーシステム
アコースティックサスペンション型

使用スピーカー

ウーファー: 50 mm × 90 mm コーン型
トゥイーター: 20 mm バランスドライプ型

定格インピーダンス
3 Ω

一般

電源

AC 100 V、50/60 Hz

消費電力

電気用品安全法による表示: 34 W
HDMI機器制御がオフ (切) のとき (スタンバイ状態のとき): 0.3 W以下
BLUETOOTHスタンバイのとき: 0.5 W以下

最大外形寸法 (約)

1030 mm × 109 mm × 94 mm (スタンド装着時)
1030 mm × 95 mm × 107 mm (スタンド非装着時) (幅/高さ/奥行き)

質量 (約)

3.5 kg

*1 JEITA (電子情報技術産業協会) による測定値です。

*2 通信距離は目安です。周囲環境により通信距離が変わる場合があります。

*3 BLUETOOTHプロファイルとは、BLUETOOTH機器の特性ごとに機能を標準化したものです。

*4 音声圧縮変換方式のこと

*5 Subband Codec の略

*6 Advanced Audio Codingの略

サブウーファー (SA-WCT660)

実用最大出力 (非同調駆動、JEITA*)
100 W、100 Hz、4 Ω

* JEITA (電子情報技術産業協会) による測定値です。

形式

サブウーファーシステム
バスレフ型

使用スピーカー

160 mmコーン型

定格インピーダンス
4 Ω

電源

AC 100 V、50/60 Hz

消費電力

電気用品安全法による表示：30 W
スタンバイ状態のとき：0.5 W以下

最大外形寸法（約）

271 mm × 404 mm × 271 mm

（幅／高さ／奥行き）

質量（約）

8.6 kg

ワイヤレストランスミッター／ レシーバー部

通信方式

Wireless Sound Specification
version 2.0

使用周波数帯域

2.4 GHz帯 (2.4000 GHz -
2.4835 GHz)

変調方式

Pi / 4 DQPSK

仕様および外観は、改良のため、予告なく変更することがありますが、ご了承ください。



省エネルギー

- デジタルアンプS-Master搭載によりアンプブロックの電力効率を85%以上に改善。
- オートスタンバイ機能。

索引

あ行

- アンブメニュー 30
- 音声を遅らせる 31
- 音量調整 12, 14
- オートスタンバイ機能 32

か行

- 高音域調整 30

さ行

- サウンドバーレベル調整 30
- サウンドフィールド 29
- サブウーファーレベル調整 30
- 接続
 - テレビ 16
 - 光デジタル音声コード 16
 - DVDプレーヤー 16

た行

- ダイナミックレンジ圧縮 30
- 低音域調整 30

な行

- ナイトモード 31
- 入力切替 12

は行

- プロテクト表示 37
- 本機を設置する 18

ら行

- リセット 38

リモコン

- 準備する 11
- 操作する 14

わ行

- ワイヤレスサウンドシステム 20

A-Z

- AAC 32
- ARC 31
- A. STBY 32
- BASS 30
- BLUETOOTH 8, 24
- BT.STBY 32
- CTRL 31
- DRC 30
- DUAL 31
- IR REP 32
- LINK 33
- NIGHT 31
- PROTECT 37
- P. THRU 31
- RF CHK 32
- SW LVL 30
- SYNC 31
- S. FIELD 31
- TREBLE 30
- VER 32
- VOICE 30
- 2か国語放送 31

よくあるお問い合わせ、窓口受付時間などはホームページをご活用ください。

<http://www.sony.jp/support/>

使い方相談窓口	修理相談窓口
フリーダイヤル ……………0120-333-020	フリーダイヤル ……………0120-222-330
携帯電話・PHS一部のIP電話 ……………050-3754-9577	携帯電話・PHS一部のIP電話 ……………050-3754-9599
	※取扱説明書・リモコン等の購入相談は こちらへお問い合わせください。

FAX (共通) 0120-333-389



上記番号へ接続後、最初のガイダンスが流れている間に
「306」+「#」
を押してください。直接、担当窓口へおつなぎします。

ソニー株式会社 〒108-0075 東京都港区港南1-7-1

HDMI



* 4 4 5 2 0 0 2 0 4 * (1)